

## 超音波検査実績

超音波診断報告書抄録

受験者氏名                      超音波 太郎

抄 録 番 号	5	年 齢	23歳	性 別	女性
検 査 年 月 日	20〇〇年〇月〇日			疾患コード	G-5
施 設 名	日本超音波病院				
[超音波検査所見]					
<p>腎動脈は左右各1本ずつ。腹部大動脈のPSV 108 cm/s  右腎動脈は中央部（分岐後約3cm末梢）にモザイク血流を認める。PSV 466 cm/s (200超)、RAR 4.3 (&gt;3.5)  左腎動脈は中央部（分岐後約2cm末梢）にモザイク血流を認める。PSV 206 cm/s、RAR 1.9</p> <p>右腎：10 x 5cm 左腎：11 x 6cm 両腎共に辺縁平滑。実質輝度の上昇や菲薄化は無し。  皮髄境界も保たれている。結石や腎盂腎杯の拡張は無し。</p> <p>腎内動脈血流波形：(両側とも、腎中部で計測)  右側：PSV ; 15.5cm/s EDV ; 9.8cm/s PI ; 0.48 RI ; 0.37 AT ; 0.18 sec (0.07超)  左側：PSV ; 16.8cm/s EDV ; 7.8cm/s PI ; 0.87 RI ; 0.54 AT ; 0.09 sec</p> <p>副腎の腫大なし。腹部大動脈に異常なし。</p> <p>PSV: Peak systolic velocity  RAR: renal aortic ratio  EDV: end diastolic velocity  PI: pulsatility index  RI: resistance index  AT: accelaration time</p>					
超 音 波 診 断 *	線維筋性異形成：右腎動脈中央部に有意狭窄、左腎動脈中央部に狭窄疑い				

抄 録 番 号	5	受 験 者 氏 名	超音波 太郎
[主訴・臨床経過・血液検査・他の画像所見・手術所見・考察など]			
【主訴】 健診で高血圧指摘			
【臨床経過】 健診で高血圧（183/120mmHg）を指摘された。昨年の検診でも高血圧を指摘されており、近医受診。精査のため、当院に紹介受診となる。			
【血液検査】 尿酸：3.8 mg/dL 尿素窒素：12 mg/dL クレアチニン：0.65 mg/dL Na：141 mmol/L K：4.3 mmol/L Cl：108 mmol/L GFR推算値：92.3 レニン活性4.3 ng/ml/hr（正常値：0.3-2.9 ng/ml/hr）、アルドステロン453 pg/ml（正常値：35.7-240 pg/ml）、血糖値 97 mg/dL			
【尿検査】 異常なし			
【他の画像所見】 造影MRIでは、両腎動脈中央から遠位側に狭窄を認めた。腎実質の造影効果は保たれ左右差を認めない。また、大動脈弓部から両側総頸動脈、鎖骨下動脈に異常認めず。心エコーで、軽度の左室肥大を認める。ABIは右1.10、左1.09であった。			
【腎血管造影像および治療】 超音波検査と造影MRIで腎動脈中央から遠位に限局性狭窄を認め、線維筋性異形成を疑い血管造影を実施した。血管造影では右腎動脈中央部に限局性の高度狭窄を認め、バルーンカテーテル（SABERX 4mm/4cm）で拡張し、造影および血管内超音波検査でも良好な拡張が得られた。左腎動脈には有意狭窄を認めず、終了した。最高血圧は入室時180mmHgであったが、退室時は120mmHgまで降圧した。			
【考察】 23歳の女性の高血圧で、レニン活性、アルドステロン高値のため腎血管性高血圧を疑って腎動脈エコーを実施した。両側腎動脈中央部にモザイク血流を認め、右側はPSV>180cm/s、RAR>3.5 腎内血流も平坦な波形を示しAT>0.07secで、線維筋性異形成(FMD)による腎動脈狭窄と診断し、バルーンカテーテルによる経皮腎動脈形成術の適応と考えられた。左側もPSV>180cm/s、腎内血流のAT>0.07secであったが、動脈造影では有意な狭窄を認めなかった。バルーンカテーテルによる治療後は良好な血圧低下が得られ、経過観察となった。 FMDは腎動脈以外の中・小動脈にも病変を認めることがあるため、エコーやMRIで内頸動脈や頭蓋内動脈を検索したが、特に異常は認められず、ABIも正常範囲であった。 術前の心エコーでは軽度左室肥大を認めたが、経皮腎動脈形成術3か月後の心エコーでは正常範囲であった。			
FMD：fibromuscular dysplasia 線維筋性異形成			
本症例は、G-7でPTRAのレポートとしても使用できるが、G-5と両方には使用できない。			
最 終 診 断 *	線維筋性異形成による右腎動脈狭窄		

公益社団法人日本超音波医学会理事長 殿

公益社団法人日本超音波医学会の定める超音波指導検査士（血管領域）認定試験を受験する基準に十分な抄録であることを認めます。

公益社団法人日本超音波医学会  
認定超音波指導医または代議員氏名  
(自署)

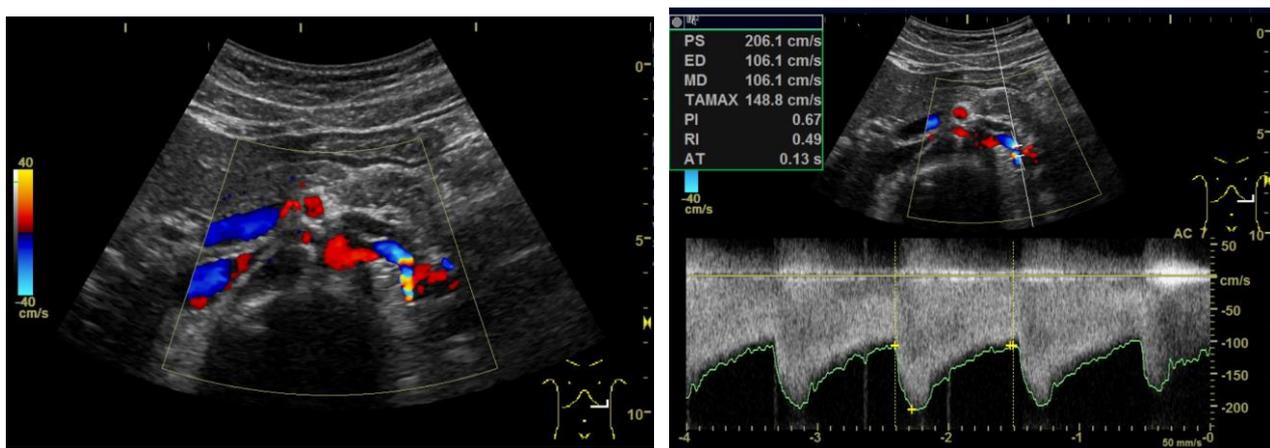
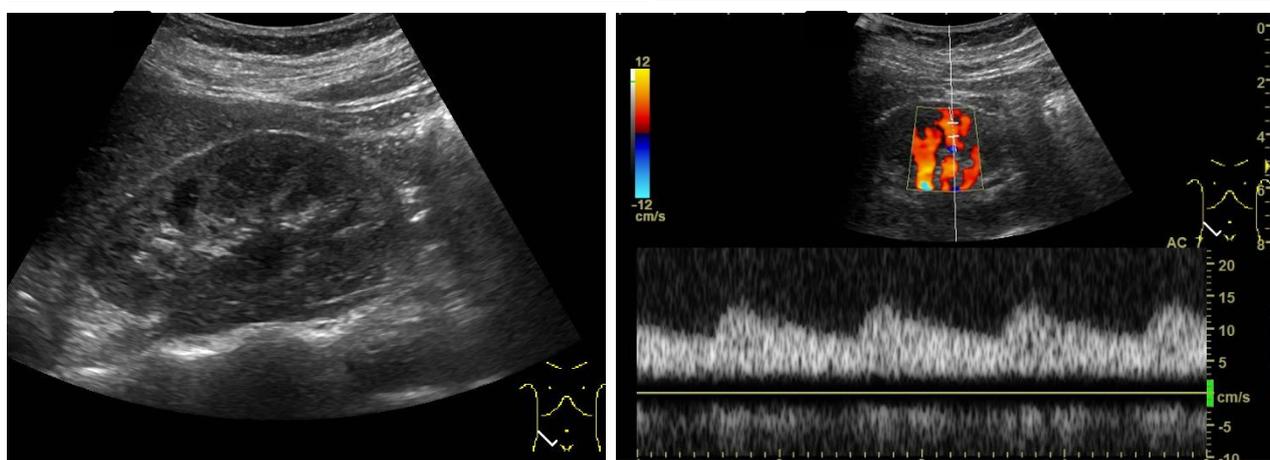
○ ○ △ △

印

指導医の場合記入してください (SJSUMNo - ■ ■ )

[写真貼付欄]

※写真裏面に、受験者氏名・受験領域・抄録番号を付記し、はがれないように貼付すること。あるいは、電子画像をコピー&ペーストで貼り付けてもよい。(写真は1症例につき6枚以内とする)。



[スケッチ記入欄]

※パソコンで作成したシエーマも可。

